
















0845
第八二號

保存期限 永久		決裁指定 局長		執行指定 	
受領番 第九一七三號		件名 九七式車載重機園銃中改正件		政務次官 回付 決裁前後 課名	
大臣 		局長 		政務次官 	
高級副官 		主務副官 		參與官 	
書記官 		主務課員 		審案 筆記者 	
主務局長 		局長 		決行後 行回 裁覽 局長 	
提領 昭和三十九年六月廿日 昭和三十九年六月廿日		受領 昭和三十九年六月廿日 昭和三十九年六月廿日		結了 昭和三十九年六月廿日 昭和三十九年六月廿日	
主務局長 		局長 		課長 	

甲兵書

陸軍



陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

機関銃 八月 二 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

改正セラルルハキニ付該機関銃 一九七 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省第六八七九號 昭和十五年九月廿八日

右送付アリタル後左案決定行相成度

陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

機関銃 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

追々右改正ノ結果既製品ニ対シ修正ハ実施セザルベシ

陸軍省第七五五五號 昭和十五年十月二十八日

陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

附屬品送附済 昭和十五年三月拾四日

0847

極 祕

九七式車載重機関銃 改正

配 賦 表

監 總 育 教															工 築 技 兵 參 兵		配 賦 箇 所		配 賦 部 數				
校 學 導 教	自 動 車 學 校	重 砲 兵 學 校	野 戰 砲 兵 學 校	通 信 學 校	工 兵 學 校	騎 兵 學 校	步 兵 學 校	砲 工 學 校	學 校 留 米	士 官 學 校	豫 科 士 官 學 校	士 官 學 校	本 部	工 科 學 校	築 城 部	技 術 本 部	兵 器 本 部	參 謀 本 部	兵 器 局	內 譯	計		
本 橋	臺																						
關										臺 灣 軍	第 十 九 師 團	第 八 師 團	第 五 師 團	第 三 師 團	第 二 師 團	兵 器 部	出 張 所	兵 器 部	出 張 所	兵 器 部	出 張 所	兵 器 部	出 張 所
密 小 東 孫 嫩 齊 海 北 牡 哈 新 野 兵 器 部	出 及 廠 支																						
山 子 寧 吳 江 爾 爾 鎮 江 賓 京 廠 部																							
支 北										軍 道 派 那 支										配 賦 箇 所	配 賦 部 數		
第 二 十 一 師 團	駐 蒙 軍	第 一 二 軍	第 一 軍	野 戰 自 動 車 廠	野 戰 兵 器 廠	兵 器 部																	
										小 四										內 譯	計		
																				摘	要		

別紙添付

陸技本甲第五三一號

九七式車載重機關銃假制式中改正相成度件上申

昭和十五年八月二日

陸軍技術本部長 多田 禮者

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

首題兵器假制式中改正相成度左記書類相添上申ス

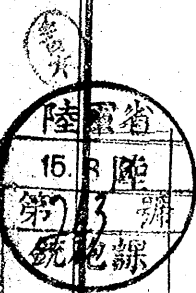
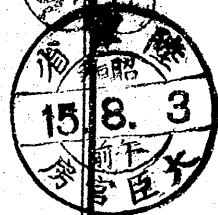
左 記

九七式車載重機關銃切貼圖

修正表

修正實施參考表

壹	貳	貳
部	部	部



軍

九七式車載重機關係修正表

昭和拾五年八月貳日

陸軍

藥番號 修正部名稱 修正値所現 行訂 正 修正理由

4 銃身藥重斷圖圖中央

切 貼

製作ヲ容易ナラシムル爲

右端寸法

1000
1000

	4	圖面 數	九七式車載重機關銃修正實施參考表 昭和拾五年八月貳日 陸軍技術本部
	銃	修正 部 品 名 稱	
	身	改 正 要 領	
	製作ヲ容易ナラシムル爲七 耗七口徑ノ各機關銃藥室形 狀ヲ統一ス	修 正 範 圍	
	第四種	實 施 區 分	
	甲	摘 要	

陸軍

0852



陸軍省副官 川原直一 殿

陸技本甲第七四七號

九七式重載重機關銃圖面竝ニ修正表送付ノ件通牒

昭和十五年十月二十六日

陸軍技術本部副官

堀

武雄

陸軍省副官

陸軍省副官 川原直一 殿

本年九月二十八日附陸普第六八七九號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝ニ修正表百九拾七通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度



陸軍

0853



陸技本甲第七四五號

爆彼用火藥火具修正表送付ノ件通牒

昭和十五年十月二十六日

陸軍技術本部副官

堀部

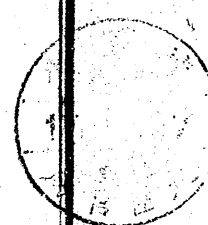
武雄

陸軍省副官 川原直一 殿

本年九月十九日陸普第六六〇〇號通牒ニ係ル首題ノ修正表貳百九通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課ヘ直送可致ニ付承知セラレ度

陸軍省
技術部
258



陸軍

第三 審査経過ノ概要

一、昭和十四年四月軽破壊筒ヲ基礎トセルモノヲ投擲シ得ル如ク研究設計ニ著手同年五月試製完了部内ニ於テ彈道試験ヲ実施ス

二、昭和十四年七月習志野竝八柱演習場ニ於テ性能試験ヲ実施ス其ノ結果投擲距離二五〇米以内ニ在リテハ彈道性良好、投擲数七乃至一〇發ヲ以テ鉄条網ニ完全ナル突撃路ヲ開設シ得、実用價值概ネ十分ト認ム、然レトモ制式統一ノ見地ヨリ部品ニ付改善ヲ要スル点アルヲ認メタリ

三、昭和十四年八月部品統一ノ目的ヲ以テ研究シ同年九月軽破壊筒（九九式破壊筒）二節ヲ接続シタルモノ及同（九九式破壊筒）一節ト翼付部（従来供試ノモノ）一節トヲ接続シタルモノノ二種竝ニ従来ノ翼板ノ代リニ筒尾ニ布片ヲ附シタルモノヲ試製シ同年十一月八柱演習場ニ於テ之カ性能ヲ試験シタル結果管体（炸薬共）ハ軽破壊筒ト共通シ得ルヲ認ム、然レトモ彈道性ヲ良好ナラシムル

為輕破壤筒一節ト翼付部一節トヲ接合シタルモノヲ可トスル判決ヲ得タリ

四 昭和十四年十月北滿ニ於ケル近接戰鬪兵器研究演習ニ供試シ更ニ同年十二月北滿ニ於テ冬期試験ヲ実施シ概ネ良好ナル成績ヲ得タリ

五 昭和十五年一月金丸原演習場ニ於テ投擲射表作製ノ目的ヲ以テ投擲試験ヲ実施ス、其ノ結果投擲距離ノ遠距離ハ約二九〇米ト判定ス

六 昭和十五年一月鉄糸網ノ外輕掩蔽部ヲモ破壤シ得ル如ク信管ヲ瞬発、延期ノ二働ニ改修シ同年二月習志野演習場ニ於テ之カ性能ヲ試験ス、其ノ結果性能良好ニシテ鉄糸網竝輕掩蔽部ノ破壤ニ適スルヲ認ム

陸軍歩兵学校

七 昭和十五年一月ヨリ二月ニ亘リ陸軍工兵学校ニ実用試験ヲ委託ス其ノ結果実用ニ適スルモ尙射程ノ増大竝信管ノ万全ヲ期スル為安

全装置ヲ更ニ一段加フルノ要アルヲ認メタルヲ以テ信管ノ安全装置ヲ改善ス（委託試験記事参照）

八昭和十五年五月金丸原演習場ニ於テ信管ノ改修部ノ可否並射程増大ニ付試験ヲ実施シタル結果信管ノ改修部ハ適當ト認ム

射程増大ニ関シテハ本破壊筒ノ管体ヲ九九式破壊筒ト共通セシメアルコト及現制九八式投擲機筒身抗力ノ關係トニ依リ現在ノ儘ニテハ射程三〇〇米以上ハ之ヲ投擲シ得ス、強イテ三〇〇米以上ヲ投擲セントセハ現制投擲機ヲモ改正スルノ要アルヲ以テ本破壊筒ノ投擲射程ハ取り敢ス現制九八式投擲機ヲ以テ投擲シ得ル限度ニ止ムルヲ適當ト認メ射程ノ増大ニ関シテハ別途ニ研究スルコトトス

以上ニ依リ昭和十五年六月審査ヲ終了ス

陸技本甲第七六三號

爆破用火藥火具羽付破壊筒外壹點圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和十五年十一月一日 陸軍技術本部副官 堀部 武雄

陸軍省副官 川原直一 殿

本年九月十九日附陸普第六五九八號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説左記ノ通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

左

記

爆破用火藥火具羽付破壊筒

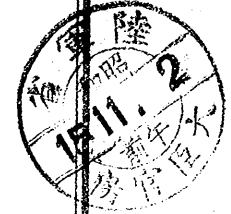
(圖面四枚) 概説壹枚

各貳百九通

同

箱 (圖面貳枚) 概説壹枚

各貳百九通



陸軍

(昭和十三、四年 東京 勝川路)